

2023年度第1回須坂市部活動地域移行検討協議会議事録

○日時 2023年5月29日 16:00～17:40

○場所 須坂市人権交流センター2階会議室

○出席者

【協議会委員】

傳田明康委員、田中賢一委員、花房多都蔵委員、鈴木はるな委員、土屋一弘氏(高橋廣貴委員代理)、佐藤宗男委員、塩野太蔵委員、島田 祐次委員、岡木久美子委員、土井恵生委員、冨澤由香委員、中澤深雪委員、新井孝之委員、前川 和夫委員、北村知栄委員、小林晃委員、吉江志濃委員、坂田早苗委員、斎藤澄人委員

【オブザーバー】

北信教育事務所土橋裕樹指導主事

【事務局】

小林教育長、山岸教育次長、中村学校教育課長、峯村文化スポーツ課長、寺澤生涯学習推進課長、安川学校教育課教育政策係長、清水部活地域移行コーディネーター

全体進行 山岸教育次長

1 開 会

2 あいさつ

教育長：

第1回の須坂市部活動地域移行検討協議会にご参加をいただき本当にありがとうございます。

各分野でご活躍されている皆さんと一同に会することはおそらく初めてではないかと思い、この会の重大な意味について思いを新たにしております。

さて、中学校の部活動であります、日本の中学の部活動というのは国際的に見ても珍しい日本の学校の特徴といたしまして、戦後始まった新たな中学校の教育の中で、教育的意味を含めて大きなウエートを占めてまいりました。

子どもたちにしてみれば、直接スポーツや文化芸術に 触れる体験学習の最たる機会でありまして、自主的主体的に参加する活動を通して、責任感とか、連帯感を涵

養したり、生徒同士やあるいは生徒と教師との人間関係を深く構築してまいりました。

また、勝利を目指しながらも、負けるという体験を通して結果よりそこに至るまでの努力の質に大きな価値を見出そうとする人間の成長に欠かせない大きな教育的意義がありました。

私の知っている中学3年生の話であります。

サッカー部で一生懸命に練習してきた彼は、毎日サッカー漬けの3年間を過ごしてきました。その彼が3年最後の地区大会の決勝戦で敗れました。

その日、家に帰ってきた彼は部屋にこもったきり出てきません。

お母さんが夕食へ誘おうと部屋のそばまで行くと泣き声が聞こえてきます。

部屋に入ろうとすると、お父さんが「やめておけ。そっとしておいてやれ。」と言う。

家族が寝静まった深夜にドアを開ける音がして、彼が外へ出ていきました。

お父さんとお母さんは眠れずにいたので、心配で窓からそっと見ていると彼は水道でサッカーシューズを泣きながら洗っていたということです。

そして次の日、昨日と打って変わって明るい表情でお母さんの前で「お母さん、今まで練習を見に来てくれたり、お弁当を作ってくれてありがとう。」こう言って元気よく学校に向かったという話です。

私は、この話を聞いて、いつか新聞に出ていた詠み人知らずの川柳を思い出しました。それはこういう川柳です。「負けた日に 心に一つ 駅を持ち」という川柳です。

この子は試合に負けて悔しい思いをした体験とともに、自分が歩んできた道のりを思い返し、誰のおかげで自分がここにいることができているか、改めて実感し、その体験を人生の大きな筋目にしようとしていたのです。まさに心の駅を作ったんだなと思いましたし、これこそ部活動が求めてきた教育的意義の重要な部分であるとも思いました。

教育的意義を担ってきた部活動であります。急激な少子化の進展に伴って、従前と同じように学校単位での運営が困難な状況が生まれ、やりたくてもできないという生徒が出てくる状況になってまいりました。

また、必ずしも専門性や意思にかかわらず、教師が顧問を務める指導体制の継続は、学校の働き方改革が進む中で、より困難になってまいりました。

しかし、どんなに少子化が進もうと、生徒が将来にわたってスポーツや文化芸術活動の真髄に憧れ、体験し、そこに生きる糧を見出す機会は、何としても、私たち大人が知恵を絞って確保してあげる必要があると私は強く思っています。

そこで、学校部活動の地域連携や地域クラブへの移行についてという全国的な動きがあり、各地域で様々な模索が始まっています。

各地域にはそれぞれ環境的な課題がありまして、一律にこの改革を進めることには困難が伴います。

幸い須坂市には、「地域の子は地域で育てる」という熱い考え方が息づいていると思っております。

また本日お集まりいただいている皆様に代表されますように豊かな地域のスポーツ、文化資源を有している地域でもあります。

協議会の皆様には、部活動の意義の継承発展だけでなく、これからの新しい時代にふさわしい、青少年のスポーツや文化芸術活動への関わり方、地域と学校がどのように連携しながら、生徒の夢を実現してあげられるかについても考えて行く中で、様々な課題を一緒に乗り越え、部活動に新しい価値を創造していただきたいと願っております。

さらには、この話し合いが生徒のみならず、地域にとってもより良いスポーツ・文化芸術の新たな環境づくり、まちづくりの出発点になったら良いと思います。これに勝る喜びはないと思っております。

今日は、北信教育事務所の生涯学習課から土橋指導主事さんにお越しいただき、全国的な改革の背景や地域クラブ活動について、あるいは先進事例についても説明していただきますので、お話をお聞きしていただきたいと思います。

今日からしばらく 皆様方のお知恵をお借りすることになります。どうぞよろしくお願いいたします。

3 協議会の開催目的と日程等について

学校教育課部活動地域移行コーディネーター説明：

最初にこの協議会の概要について説明申し上げます。

本協議会の開催目的についてですが、令和4年12月にスポーツ庁および文化庁から、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が示されました。少子化が進む中、将来に渡って、生徒がスポーツや文化芸術活

動に継続して親しむことのできる機会を確保することを目指し、中学校の部活動の地域移行に向けた課題に、総合的に取り組むため、この協議会を開催するものです。

協議事項につきましては、部活動の地域移行に係る仕組みづくりなどに関することということで、地域移行に関する課題をしっかりと把握する中で、地域クラブをどういったものにしていくか、運営主体や指導者の確保、活動場所、経費などをどうしていくか協議をしていただきます。

協議会の委員については、この後、自己紹介をしていただきますが、資料5の名簿の通りです。

委員の任期につきましては、来年3月31日までとなっておりますが、来年度以降もこの協議会は存続する予定ですので、引き続き委員をお願いする場合があります。

また、団体の代表で選出されている委員さんは、団体の役員交替があり、任期満了前でも別の方に交替したほうが良いと考えられる場合は、途中交替もありですので、そういった場合は事務局にお知らせください。

座長等につきましては、この協議会に座長と副座長を置き、協議会の会務を中心になって進めていただきますが、この後、互選により選出していただきます。

次に、2023年度の協議会の日程となります。

第2回は、7月3日(月)16時からを予定しています。予定をつけづらい方もいらっしゃるかと思いますが、なるべくご都合いただきますようお願いします。

第3回は、先進地の視察を予定しています。視察先は現在検討中です。

3回目以降の開催日は未定ですが、随時調整して、皆様に通知申し上げます。

これから部活動の地域移行に関する協議していただくわけですが、課題や意見を出していただく中で、それらを整理し、対応策を検討しながら、方針を決定していく予定になっておりますのでよろしくお願いします。

次に参考資料として、今年度の中学校部活動別1年生入部後の入部者数一覧表を配布させていただきました。

様々な状況がありますが、現状ということで参考にしていただければと思います。

次に、これも参考資料になりますが、今年度の運動部文化部別の入部者数と入部率を示したものを配布させていただきました。

運動部が45%、文化部が28%の加入率ということになります。

ここには示していませんが、長野県の資料によれば、全国と比較すると長野県の中学生は、運動部への加入率は低く、文化部への加入率が高いという状況があります。長野県の考察によれば、運動部については、少子化による部活動の統廃合により、やりたい部活動の選択肢を少なくしていることが原因の一つではないかと考察していますが、一方で、長野県は地域のスポーツクラブへの加入率が全国平均よりも高いことから、一定程度、地域におけるスポーツ活動の体制が作られていて、部活ではなく、そちらで活動していることが想定されるとも考察されています。

次に資料4をご覧ください。

これは令和4年10月1日現在の数値を基にした6年先までの児童・生徒数の変化を示したものです。児童生徒数が減少していることがわかります。令和5年と令和10年の中学生数を比較すると95人減る推移となっています。

この後、説明する資料の中で、令和4年10月1日現在の毎月人口移動調査の数値が出てきますが、須坂市の0歳児は300人という結果が出ています。今現在の0歳児が中学生になるころは、中学生数が1,000人を切ってくることも予想されます。

4 自己紹介

5 座長及び副座長の選出

互選により選出となるが、委員からは意見がなかったため、事務局から提案した。

事務局から座長に東中学校の新井委員、副座長に常盤中学校の高橋委員を提案し、委員の了承を得た。

6 議事(進行 座長)

(1)「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」等について(①部活動改革の背景、②地域クラブ活動の環境整備に向けて、③先行した取り組みについて)

協議会オブザーバー北信教育事務所土橋指導主事説明：

①部活動改革の背景について

まず一つ目は少子化、人口減少の加速化ということです。須坂市の資料にもありますが、左側のグラフは、全国の中学生の今後の人口動向の推移ということで、2018年から2068年までを示しています。

ご覧のとおり急に全国的に子どもたちが減っていく。同様に右側が長野県の中学校生徒数の推移になりますけれども、2002年から2032年までの予想をしておりますが、平成14年から令和14年までの30年間で約4割、2万6000人強が減少していくということで計算されております。

国の方でも少子化対策ということでいろいろ出てきておりますけれども、このように子どもたちが減っていくということが既にわかっている。

こちらも昨年の11月15日に県民新聞に載った記事であります。昨年10月1日現在の県内の市町村の0歳と15歳の子供たちの人数が出ております。

須坂市を見ていただきますと、昨年10月1日現在の15歳の数で460人。0歳児が300人となっております。もちろん人口ですので、転出入があり、0歳児が300名で推移するとは言えませんが、このままいけば15年後には300人になる。

本当に様々な状況ですが8割程度子どもが減ってしまう自治体もあります。これが現状です。次に長野県中学校の運動部活動の状況です。

左側は運動部の統廃合があった学校数の推移ということになります。

平成26年から継続的に毎年ほぼ20前後が学校の中で部活を統廃合しているという現状があります。令和4年については27校が運動部の統廃合を行っております。

右側のグラフにつきましては、合同チームによる大会参加数です。

令和4年については、夏の大会は78校が合同部活で参加している種目があります。新人大会については、県内約190校ありますが、116校が合同チームで参加する状況になっています。

少子化の進行が部員数の減少となって活動の形態にも影響を与えております。

またこれは運動部活動だけに関わることはありません。文化芸術活動についても同様であります。

長野県吹奏楽コンクール中学校の部の出場団体の推移ですが、この青い線がA編成で、21名以上で組むことができれば、大編成に参加することができます。A編成で参加する団体数が減ってきているのに対して、20名以下のB編成が増えてきている状況があります。

運動部活動に加入する生徒数は少ないですが、文化芸術活動の部活に参加する加入率は高いが、吹奏楽に関してもこのように、人数が減ってきている現状があります。今までのお話をまとめるとそもそも部活動改革を進める理由としましては、やはり全国的に少子化が深刻となっている。少子化の影響を受けて、一つの運動部あたりの人数が減ってきている。チームスポーツなどは人数が足りない。団体戦に出ることができなかったり、練習試合ができない現状がございます。

それから、やりたい部活が学校にない。子どもたちが減ってきているので、運動部や文化部も縮小せざるを得ない学校がでてきている。

もう一方の側面として、教職員の勤務時間に関わることがあります。

これは令和4年9月義務教育課からのデータですが、小学校や中学校の先生方の休日勤務の平均時間が示されています。

中学校の先生が小学校の先生よりも、4月は4時間50分。6月7月については7時間、6時間と勤務時間が長くなっています。この時期は運動部であれば、ちょうど夏季大会前です。土日はどちらか一方の半日、3時間程度の活動となっていますが、大会前で、先生方も、子どもや保護者の了解を得ながら、練習試合に行くなどの現状があります。また、10月、11月を見ますと、ここも増えております。ここは新人大会前ということになります。

先生方の献身的な取り組みによって成り立っている活動であります。先生方も家庭があり、プライベートもあります。そのところが、この部活動改革の背景の一つの側面となります。

続いて、運動部顧問の競技経験になりますが、先生方自身が学生の時に取り組んでいた種目をそのまま顧問として担っているかどうかというグラフになります。

同じ運動経験をやっていた教員は4割弱、運動はしていたけれども、自分の専門としている種目ではないという教員が45%、運動経験なしという教員が15%となっています。運動はしているけど専門ではない、運動経験がないというこの教員を合わせると6割以上がご自身の専門ではない活動を担っているという現状があります。

それに伴って、右側のグラフは、外部指導者と部活動指導員の任用人数となっています。オレンジの部分は、部活動指導員の任用数であります。年々増えており、需要が高まってきていることがうかがえます。

他にも子どもたちが学校に設置されている部活動以外のものをやってみたいとか、様々な多様なニーズが増えてきております。

それから、引退後続けられる場所がないことがあります。小学生であれば、例えばスポーツ少年団に入っている子どもたちもいるかと思いますが、何となくスポーツ少年団は小学校6年生になったら今度は中学校の部活だという流れがございます。

中学生も本当は今高校に行っても続けたいって思っているかもしれませんが、中学校で頑張ったから高校では違うことをやってみたいとか様々なニーズを持っています。

子どものスポーツ機会を守るために、地域の子供が学校も含めた地域で育ていくというこの思いを皆さんに共通して持っていただけるといいなと思っております。

地域で多様な活動を楽しむことができる。それから学校という枠を超えた仲間を作ることができる。多様な世代との豊かな交流。今回の話は、中学校に限定されている話かもしれませんが、国としては、もう少し大きく考えておまして、須坂市の子どもたち、保育園幼稚園の子どもたちから高齢者までを含めて、この須坂市に住んでいる皆さんがスポーツや文化芸術活動に親しむためにはどんな環境を作っていけばよいかということ大きなビジョンで考えることが必要だということも国では言っております。

今お話をしたことをまとめますと、このようなところが、地域移行に関わって必要となってくる背景となるかと思っております。生徒数の減少ですとか、もっと気軽な活動や様々な活動をしてみたい。子どもによっては、日本一を目指したいもっと多くやりたいうという子どもたちもいるかもしれませんし、いや、仲間と楽しくわいわいしながらやりたいという子どもたちもいるかもしれません。そんな子どもたちのニーズに地域として応えていくということがこれから必要になってくるということでもあります。

まとめますと、深刻な少子化が進行していく中で、今までと同じような体制で運営を維持していくことは困難ということ。中学生の子どもたちのスポーツや文化芸術環境を学校の部活動では支えきれないという現状がある。もう一つは、先ほどからお話をしておりますが学校の働き方改革です。

ただ、教員が楽をするためにこの地域移行するのではないということ。このことは共通して持っていただけると大変ありがたいと思っております。

②地域クラブ活動の環境整備に向けて

続いて環境整備についてです。今までの背景をもとにしながら、国では運動部活動の地域移行に関する検討会、文化部活動の地域移行に関する検討会を開催してきました。そして令和4年の12月に総合的なガイドラインを出しました。

運動部活動のあり方に関する総合的なガイドラインおよび文化部活動のあり方に関する総合的なガイドラインを統合した上で、この一つのガイドラインを作っております。

学校部活動については、教員の部活動の範囲については、業務改善や事務管理をしながら適正に行っていく。

それから週当たり2日以上以上の休養日を設定すること。

学校と地域が協働・融合した形での環境整備を進めていく。

これが学校部活動に関するガイドラインとなっております。

それから、新たな地域クラブ活動については、地域スポーツや文化振興担当部署や学校担当部署、それから関係団体、学校等関係者を含めた集めた協議会、本日皆様にご参加いただいているこの協議会を立ち上げるということになっています。

それから学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備ということで、まずは休日における地域環境の整備を着実に推進していく。

令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として、可能な限り早期の実現を目指していくことが書かれています。

大会等のあり方につきましては、皆様ご存知のところもあるかと思いますが、また後ほど出てまいります。日本中体連それを受けて、県中学校体育連盟でも大会参加については見直しを進めてきており、この国のガイドラインを受けて、県としては、同様になりますけれども、まずは休日に行われる地域クラブ活動の環境整備を推進し、この3年間を改革推進機関として取り組みを県としても、各市町村を支援してまいります。

それから、令和7年度末にこの状況を評価検証し、令和8年度以降も継続して協議検討していく、その支援を県としても行ってまいります。

地域の実情に応じて、地域の合意形成条件整備が整ったところから随時地域クラブ活動へ移行していくことを推進してまいります。

地域クラブ活動における環境整備のスケジュール感ですが、協議会開催というものがあありますが、これは県の協議会に関わることです。

令和5年の2月に第1回の県の協議会を開催しています。様々な各団体の代表の皆様は委員として参加いただいております。

2回目、3回目につきましては、6月、7月の開催を検討しています。県としての活動指針を改訂して皆様にお示しする方向で進めております。

開催日が決まりましたら、県の協議会のホームページに掲載しますのでそちらもご確認いただければと思います。

地域クラブ活動の環境整備に向けた目指す姿ということで、長野県としては、生徒は、平日休日ともに、地域クラブで活動していくことを目指しています。

教員については、学校部活動は平日のみ、ゆくゆくは平日も地域クラブ活動に移行していくことが、目指す姿でありますので、ただ、一様にすぐできるものではありませんので、学校部活動と並存しながら進めていくということも考えています。

それから希望する生徒は地域クラブでニーズに応じた対応ができるということも大事にしていきます。令和5年度から中体連の大会は学校部活動と地域クラブのどちらかを選択して参加できることになっています。

部活動改革を通して、子どもたちが将来にわたってより良いスポーツ・文化芸術に親しめる環境を構築していくことを目的としております。

もう一つは教員の負担軽減により、教員の働き方改革を推進していくということを目指しています。

長野県中学校体育連盟のホームページに同様のものがありますが、令和5年度から地域のクラブが大会へ参加できます。中体連大会の参加範囲が広がっていきます。そういう通知が出されています。

③先行した取り組みについて

先行した取組みということでご紹介したいと思います。

皆様、報道等でご存知かと思いますが、千曲坂城クラブ、千曲市坂城町で行っているものがあります。

3月23日に設立総会を開催しまして、活動を進めています。

仕組みとしましては、千曲市坂城町の教育長先生たちが会長、副会長になる。

それから、真ん中にございますその専門部というものを開設して、千曲市坂城町の中学生たちがそこに入って活動しております。

今は、月に1回もしくは2回程度の休日の活動ということで活動しています。まだ、全て休日活動を行っていることではありませんが、できない場合は、中学校ごとの範囲で活動をしているというのが現状でございます。

千曲坂城クラブの目指す姿ということで、まずは、この子どもたち、保護者、地域の多様なニーズに可能な限り応じたクラブを目指していきますとなっております。

それから、クラブ指導者として活動したい教職員は兼職兼業の許可を得て参加することができるようにしていきます。

千曲市坂城町の新たなスポーツ・文化芸術環境を構築するクラブを目指していくと千曲坂城の保護者の皆さん、生徒の皆さんにも通知が出されております。

費用については、受益者負担が原則となりますと記載されております。

年会費3,000円で、班ごとに、また追加徴収する部分もあるようですが、年会費3,000円ということで活動されている。

それから課題となってきている子どもたちの交通ですが、会場までの交通については、千曲市坂城町にあるバス会社とか、タクシー会社と連携をしながら今年度初めから試行を進めてきているということをお聞きしています。

また今年度は、賛助会員制度ということも検討されているということで、年会費だけでは賄えない部分を地域の企業さんなどからも協力をいただけるような形も考えているということでスタートされています。

最後にですが、クラブ運営には多くの課題が予想されます。

子どもたちにスポーツ・文化芸術活動を保障していくために、みんなで知恵を出し合い、作り上げていきたいと思いますという一文が書かれています。

千曲坂城クラブもスタートはしているのですが、その都度課題が出てくる。そんなことも想定されております。その課題については、皆さんで意見を出し合いながら検討していきましょう。みんなで作っていきましょうということが書かれています。

まさに地域の実情に応じて何が有効になるのかということは本当に変わってくると思っております。全国的にも様々な事例が今少しずつ出てきているところがございしますが、それが全て当てはまるということはないと思っております。

まずはここにお集まりの皆さんがご自身の立場で私の立場だったらこんなことができそうとか、こうやったらいいんじゃないとか、そんなことをぜひ意見を出していただきながら検討を重ねていくことが非常に重要ではないかと思っております。

事務局がおそらくイニシアチブとるところがあると思いますが、事務局だけが検討しても難しい問題がありますので、それぞれの委員の皆さんのお立場でどんなことでもいいと思いますので、ご意見を出していただきながら、皆さんで作り上げるということが非常に重要になってくると思っております。

大変雑駁な説明でわかりにくい部分がたくさんあったと思います。

私の方でも今後ご指摘いただきましたら、その部分についてまたご説明できるよう準備をしまいたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(2)意見交換

(座長)

ありがとうございます。今、説明していただきましたが、今日初めてという話も多かったかと思うので、質問がありましたらお願いします。

補足説明させてもらいますが、合同チームというのがでましたが、球技で例えばバレーボールなら6人、野球なら9人を下回る場合、合同チームが組めまして、今現状で言いますと、男子バレーボールで相森中学校と常盤中学校が合同チーム、バスケットボールは市町村をまたぎますが、東中学と高山中学校女子バスケットボールで合同チームを組んでいます。須坂ではないが、高山中学校サッカー部が篠ノ井中学と飯綱中学の3校で合同チームを組んでいます。

質問よろしいですか。

それでは意見交換に入りますが、今、思っていること等ありましたらいかがでしょうか。最初にA委員、バスケットボールの方でも課題があるかと思いますがいかがですか。

(A委員)

千曲坂城クラブを中心になって進めてきた方とか、実際に今やっている方からいろいろな話を聞きますが、本当に課題があると思います。自分も大筋のところはなるほどというところはあるがわからないことも多い。

例えば中体連はどうなるのか。中体連の大会をやるにあたって1試合やるのに審判は2人ないし3人必要です。それからTOの管理とかもする。そうすると大会運営はどうなるのかと思う。地域移行といっても相当人がいないと大会運営ができないと思う。北信越も運営させてもらう中で、そんなことを感じる。やはり人をどう集めたらいいか。それから今バスケットで少し考えているのは協会と絡みながら、なかなか難し

いところですが、例えば、須坂市協会で1チームって形にして、それぞれ学校毎に活動する形で、大会のときには学校毎、場合によっては一緒にということで、その中でそこへ関わる人を増やしていくなど、いろいろ試行錯誤しながら考えております。

(座長)

ありがとうございました。今後の方向として、いろんな課題があって、大会につきましては、指導者とか審判とかいろんな課題についてお話いただきました。

先ほどの話の中で部活動指導員が増えていることをお聞きしたが、部活動指導員の立場からB委員をお願いします。

(B委員)

部活指導員として3年が終わり、4年目となります。部活指導員となって一番思っていることは、先程、地域移行したときは部活動ではないという話がありましたが、子どもたちは同じということです。中学校生活をしている子どもたちは、メンバーが多少変わろうが、中学校生活を過ごして部活に来る。普段の子どもたちは、学校生活でどんな生活をしているのか。この子はどういう性格なのか、どんな特徴を持っているのか、ここを現場の者たちが中学校の先生方といかに情報を共有して、その子に寄り添うか、これは私が教員になってからいつも思っていることです。

子どもたちの長い人生の中の3年間、この部活を選んでくれたこの子の3年間にどう寄り添っていけば良いのか。そこをこれから自分も気をつけていくし、これからいろんな方が現場に出てきて子どもたちと接する機会が増えてくと思うが、何といっても人は人でなければ育てられない。やはり寄り添っていくという指導者の考え、それがないと決して持続可能な組織にはならない。

いくら器を作ったところで、最終的には、生きている人間対生きている人間同士の寄り添い方、接し方だと思います。

やって良かったな。所属して良かったな。それが10年後20年後になっても良かったな。生きている。そういうところ、それが部活指導員として教員を離れてみて、さらに強く感じています。

これから須坂市もようやく取り組んでいただけるということで、知恵を出して頑張ろうと思っていますが、とりあえず場所だとか、どう集めるかっていうことも出てくると思いますが、何といっても今A委員がおっしゃったけれども、どういう指導者、どう接する方達を集めて、そしてその方たちが同じ思いや同じ接し方をもって子どもに寄り添っていくのかということのほうがすごく大事だと感じています。

(座長)

ありがとうございました。

教員から手が離れて地域に移行することで指導者の資質とか指導力とか、適性とか、千曲坂城クラブは、研修を組んでやっていますが、その辺、スポーツ協会ではどうですか。

(C委員)

スポーツ施設を一番持っているのは中学校なので、地域クラブができてくるとすれば、施設の使用については調整する機関を作ってほしいと思う。研修については、JFC須坂サッカースクールでは、指導者研修会はもちろんやっており、審判講習もやっています。また、ガイダンスも始まり、子どもたちに対する指導者の接し方も勉強しています。テストもあります。合格しないと指導者の資格がもらえない。

(座長)

サッカーはそういうシステムがしっかりしていて、先行してやっている。小学校のバレーボールも研修を受けないと指導できない。だんだんそうなっている。

D委員、合同チームを組んでいる課題とかお話いただけますか。

(D委員)

女子バスケットボールの方を持たせていただいて、去年の夏の大会以降から高山中と合同チームを組んでいる。

高山中の方から声をかけていただいて合同チームを作った。平日は一緒に練習できないので、練習するのは土日のどちらか3時間程度。高山中学校の方は、クラブチームとして参加、東中は部活として参加という場合もあり、その調整が難しい部分もありました。また、合同チームになると、練習会場が東中になったり、高山中になったりするため、送迎など保護者の方に負担がかかる部分もあったと思います。

(座長)

ありがとうございました。

先ほど、吹奏楽のチーム編成の話が出ましたが、前にいた学校では、3校合同で部活動を行っていました。楽器の持ち運びとか誰が指揮するかとか大変でいろいろな苦労がありました。

E委員、吹奏楽の方で何かありましたらお願いします。

(E委員)

メセナウィンドで活動していきまして、この地域移行という話題が出始めてからずっと注目はしていました。スポーツと違って、吹奏楽は一緒にやるって難しいし、地域に入ってくることをイメージしてもわからないことが多い。中学生と一緒にやればいいけど、部活動でコンクールを目指してやってきている子どもたちと楽しくやろうとやってきている私達とどうすれば良いのか。例えば夏のコンクール前にはコンクールに出たい子どもたちと一緒にコンクールの曲を練習したらいいのかとか。

もう一つ言うと、うちは指揮者が東京から来ている。月1回しか来ない。そうすると、日常的に子どもたちの音楽活動っていうものをどう作っていけば良いのか。

練習自体も、指導者は月1回来る。それ以外に個人練習があるが、2週間に1回、わずかに3時間ぐらいしかやっていない私達の活動と一緒にやるにはその活動自体を変えていかなければならない。

現在いる団員は、どこまでそれを担ってくれるのか、私自身は普段から子どもたちに接している仕事をしているので、心のケアとか先ほどの話にもありました特性とか、そういったことを受け入れながらやっていくことに違和感はないが、それを団員達皆にお願いすることができるだろうか。

楽器も違うし、やっていることも違う中で、それを調整していく。団長の私が全部調整をしていくのか、メンバーのスケジュール調整、管理、もう少し言うと責任はどうなるのか。問題がたくさんあり非常に難しい。

千曲坂城クラブは主導が教育委員会でやっていただいて、やり方はすごく良いと思う。主導し、運営をやっていただいているところへ一緒にやりましょうっていうことで指導者とかアドバイザーという形でやるということだったらできるのではないかと思います。責任がかかってくるとなると、難しいことが起きてくるという印象を受けました。

(座長)

千曲坂城クラブも指導者に教員が入ったり、吹奏楽団の人が入ったりして一緒にやっている。合唱も含めていろいろな課題があると思います。

他に何かありますか。

(F委員)

皆さんと少し違う感じですが、須坂市技術情報センターでは、科学クラブをやっておりまして、3年目に入りました。

月1回、第3土曜日の午前中にやっているのですが、墨坂中学校の科学クラブの一部の生徒と地域超えますが、長野市更北中学校のものづくり部の一部の生徒と今年

中学生になった生徒がきています。

団体競技じゃなくて、子供たちが自分たちでやりたいことを自分たちでテーマを決めて1年かけて研究しようということでやっているの、いわゆる個人競技のような感じです。

それぞれがやっているの、今言われたような難しさはない。ここへ来るといきいきしている子がいます。部活の先生がよく来てくれるので、今はうまくいっています。

指導者は情熱がないといけないと思うが、情熱だけで続けられるかという心配があります。有償ボランティアみたいな感じでないといけないのではないかな。

会費3000円とか先ほど話しが出ましたが、100人いたとしても30万円。有償ボランティア的な考えがなくて、指導者が完全無償だということであれば、運営費は出るかもしれないが、指導者は有償でと考えると、難しいと思います。情報センターの科学クラブは、須坂市から補助金をいただく中でやっているの、その点は問題ないが、どう考えていけばいいのかと思います。

(座長)

千曲坂城クラブは3000円ということです。うち800円は保険です。

これから賛助会員を集めるということであり、やはり財源が問題で、これから企業を回るという話も聞いています。

他にいかがですか。

先ほどの話で、顧問の先生が、専門の方ではない。特に小さい学校には、専門の職員がつけられない。今、東中学校は顧問全員が専門ではない。

G委員は専門でない部活の顧問をされていますが様子をお話いただけますか。

(G委員)

墨坂中学校の方もやはり専門競技を教える先生は少ないです。何人かの先生だけが専門の競技を教えているのが現状です。私は卓球部を初めて経験させていただきました。

保護者の方にも相談して、外部コーチ3人に入っていていただいて、手厚い状態でやらせていただきました。

非常に皆さん協力的にやっていただいてありがたいなと思いました。

やはり地域クラブは指導者の確保については、確実にやっていかなければならないというのが私自身の経験から感じているところです。

また、違う視点になるのですが、部活動の良さとは、学校にいる仲間と、その場所で活動ができるってことです。だから地域クラブとなったときに、できるだけその良さは無くしたくない。地域移行を考えると、クラブ活動のあり方ってどうしたらよいのかってことを考えているところです。千曲坂城クラブのやり方がすごくいいなと見させていただいた。

私、専門はサッカーですが、野球部だったり、バレーボール部だったり、ほかの種目を顧問して、他のスポーツの良さも感じる。いろんな部活動ができたとき「いろんなことをやっていきたい。」と思えることはすごく素敵なことだと思う。ただ、どの程度広げて良いか。いろんな子供たちのニーズに応えたいが、可能な範囲はどうかを考えて、須坂市として地域移行したときのゴールをしっかりと作っておいて、進めていくことが大事だと思う。

(座長)

今言われたことを今年にかけて決めていくのかと思います。

今外部コーチと言っていただきましたが、これすべてボランティアやってもらっています。各学校に入っていて、やっていただいている実情もあります。

他に何かありますでしょうか。

(小林教育長)

今日実は3-1の資料の中に 部活に入部している子どもたちの人数が書いてありますが、今の段階で、運動部7種類、文化部は5種類の部活に入っています。

運動は、結構集団でやることが多いのですが、例えば、文化部で一番多いのが、美術部で129人という大所帯ですが、H委員さん、美術部が集団で何かをするっていうことっていうのはあるのですか。

(H委員)

例えばですけど、今年須坂高校100周年ということで、伝統の龍の制作を東京芸大生が来て、大きな龍の像を作っています。それを、美術部の子たちがこの土日にお手伝いという形で石膏取りを皆でやりまして、みんなで真っ白になりながら共同作業を行いました。あと高校生の学習スペースのコトコトのシャッターアート。JAのところもそうです。他には須坂市動物園のカルタを市内3校美術部合同で作るとか、集団でやることもあります。

ちょっと話が質問とずれてしまうのですが、お話したいと思ったのは、昨年、スロバキアの方から留学生が来ました。たまたま美術部に入部した。スロバキアでは、クラブは

全くないそうです。日本に来て須坂高校の美術部に入って本当に良かったって言って感激していた。今度、竜胆祭にもぜひ皆に会いたいとまた日本に来てくれるんですけど、そのぐらいその美術部の引力ってある。部活の教育的意義ってあると感じた。

何を言いたいかというと、クラブがない国があるというのは驚いたが、日本は逆に言うとそういう文化を持っている。今までそういうものを培ってきたから、スポーツや文化で成果を残していると思った。だからポジティブに考えると、今度他の学校の人とそれこそコラボレーションして、共同のこととかできるし、考えていくと結構わくわくする。他のスポーツもそうかなと思う。

(小林教育長)

はい、ありがとうございます。

今日、I委員にも来ていただいています。須坂の子供たちは結構踊りとか、琴とか、文化活動に小さい頃から携わっている子が多いと感じている。その子たちが、今までは中学に入ると部活に入るからとできないと止まってしまうことがあったとすれば、これからの部活はひょっとしたらそういうことも、自分たちでやりたいということで中学でもできるような気もして、子どもたちが自分で選んだものをどんどん追求することができるっていうことであれば、やり方によっては可能性がもっと広がるのではないかと思います。その辺どう思いますか。

(I委員)

今教育長のお話がありましたけれども、須坂市文化芸術協会としましては、一番問題なのは、子供たちは、小学校まではそういう習い事をやるのですが、やはり中学に行くと大体忙しい。また部活が大変ということで、私日本舞踊を教えていますけど、隣のJ委員はバレエをやってらっしゃいますけれども、中学へ行くと辞めてしまう。

もちろん続ける子はいるのですが、そこが一番問題のところですね。今、教育長が言われたとおり、文化庁が美術、技術、科学、吹奏楽、合唱とありますけれども、私自身は、やはり伝統文化っていうものを子供たちに習ってほしい。日本のそういった伝統と歴史のある文化は、習う場が教育の場であれば、もしかしたら、やってみたいっていうのもあるのではないかと思います。日本の伝統文化を子供たちにぜひ継承してほしいという気持ちが私自身は強いです。

須坂市文化芸術協会は、高齢化しておりまして子どもは少ない状況ですが、中学校の部活動の問題に関しまして、気持ちとすればやはり日本舞踊、お茶、お花などの日本の伝統文化、またはバレエ、ダンスとかありますけれども、そういったものも含め

て、これからどんどん子どもが減っていく。そうした中で学校同士が一緒になってやっていくっていうことも将来的には厳しいのではないかと思う。やはり行政が中心になって、文化関係でしたらメセナホールや生涯学習センターなどを使って、そこで指導していくとか、やはり行政が携わって、最終的にはやらざるを得ないのではないかと私は思っています。

(座長)

生徒たちの思いとかを聞くこともこれから検討するうえで大事かと思います。

最後に一点だけですけど、先ほど説明のところで、中体連の大会は今年から学校部活動と地域のクラブ活動のどちらかで出ることができるという話がありました。

今週末から大会が始まっていきますが、今北信だけで今年の夏、23のチームが、いろんな種目に地域クラブで出てきますので、またいろいろ話題になってくるかと思います。それもまた注目していただければと思います。

では、ここで打ち切って、事務局の方からお願いします。

(事務局)

今回の内容ということで説明します。

今日は、皆さんからいろんな意見をいただきました。次回は更にもう少し掘り下げ、多くの皆さんからそれぞれ立場で、現状とか課題とか意見などを出していただきたいと思います。それらを整理しながら進めていきたいと思います。

また先進事例等も参考になるものがありましたら、紹介したいと考えております。

次回の日程につきましては7月3日月曜日4時からでお願いしたいと思います。

意見交換シートをお配りしていますけど、本日、質問できなかったこととかありましたら、この用紙を出していただいても良いですし、事務局の方にメールで問合せいただいても構いませんので、よろしくお願いします。私の方からは以上でございます。

以上をもちまして 少し時間オーバーしてしまいましたが、第1回部活動地域移行検討協議会を閉会いたします。ありがとうございました。